様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：14401
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22320145
研究課題名（和文）　近世ヨーロッパ周縁世界における複合的国家編成の比較研究

研究課題名（英文）　Comparative studies in the early modern conglomerate states in peripheral Europe

研究代表者
古谷 大輔（FURUYA DAISUKE）
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：30335400

研究成果の概要（和文）：本研究は、近世ヨーロッパ周縁部の国家編成に見られた地域統合の方法と論理に着目し、戦争・内乱などの背景に立ち現れる普遍的な秩序観や君主観の存在、そうした観念に基づいて実践された統治者と地域社会の交渉、その結果としての多様な結合関係を比較した。その結果、普遍的な秩序観や君主観を脊柱としながら複数の地域が集塊する、近世ヨーロッパに普遍的な国家の輪郭を、「礫岩国家」として結論づけた。

研究成果の概要（英文）：This study focused on methods and logics of regional integration which we can confirm on the state-formation in the early modern peripheral Europe, and we compared visions of public order or images of universal monarch, processes of negotiation between ruler and communities, various relations between them which were based on such negotiations, among north, south, east and west European cases. From such comparative studies, we derived the methodological concept of " the conglomerate state" as one of general aspects of the early modern state-formation to agglomerate plural regions on diverse relations to monarch depending on various images of universal order.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2011 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2012 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総　計	10,500,000	3,150,000	13,650,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・西洋史
キーワード：西洋史、近世史、国家形成、複合国家、礫岩（コングロマリット）国家

１．研究開始当初の背景

近世ヨーロッパの国家形成をめぐる研究は、特定領域内における正当な暴力行使の独占を要求する組織としての M.ウェーバーによる国家の定義以来、長らく近代国家への発展過程を論じる議論のなかに位置づけられてきた。

（１）研究史上、初期的な近代国家形成を近世国家に見る歴史社会学の知見は、公共善の促進を建前とした自律的な国家機構の形成過程や特定領域内で対立する社会集団や地縁集団の調停者たる国家機構の形成過程を明らかにしていた。

（２）その一方で、近世ヨーロッパの実態

に即した政治史・社会史研究の進展に裏付けられた歴史学の知見は、国家主権の及ぶ範囲をして領域と捉える近代的な国家観では捉えられない近世に独特な複合的国家編成の存在を明らかにしていた。

①ヨーロッパの歴史学界では、複数の王国が連合するスペインを事例に提唱された J.H.エリオットによる複合王制論や、王国のみに限らず中世以来育まれてきた多様な政体が特定王権のもとに複合するスウェーデンを事例に提唱された H.グスタフソンによる複合国家論などが個別に議論されていた。

②しかし、これらの複合的国家編成に関する従来の議論は、各地域の個別事例に基づいた実証が各国の歴史学界で進められるだけで、それらの知見が有機的に結びつけられず、さらにそれらの議論も多様な利害関心をもった政体が単一の為政者の統治権を承認することでモザイク状に寄り集まった点を指摘するだけに止まっていた。

２．研究の目的

本研究の最大の目的は、ヨーロッパ各国の歴史学界において、従来地域別に議論されるままであった東・西・南・北ヨーロッパの複合的国家編成に関する知見を有機的に結びつけることで、近世ヨーロッパに独特な国家編成の普遍的な特徴を明らかにすることに置かれた。

（１）本研究の史学史上の目的は、近代主義的な国家観を前提としては理解できない近世ヨーロッパに独特な国家編成のあり方を示すことで、国家形成史研究において根強い近代的国民国家観の相対化に置かれた。同時に、歴史的ヨーロッパの言説空間において「周縁」に位置する地域に関するモノグラフを結合しながら、歴史的ヨーロッパの政治社会がもつ「普遍」性を逆照射することで、西欧理解を重視してきた日本の西洋史学研究の方法に再考を促す目的もあった。

（２）本研究の方法論上の目的は、ヨーロッパ各国の歴史学界におけるモノグラフを日本語という共通語で比較検討できる日本の歴史学界の利点を活用することで、ヨーロッパ各国の歴史学界の事情の違いに応じて理解が異なる複合国家論に包括的な議論のフォーマットを提供することに置かれた。具体的には、複合的国家編成の制度的側面と理念的側面に関する比較検討の基準を提案することで、歴史的ヨーロッパに独特な政治社会をひろく議論する上で共有されるべき比較検討の基準を設定することに目的があった。

３．研究の方法

本研究は、複合的国家編成をめぐる研究実績が厚いイベリア半島、ブリテン諸島、中央ヨーロッパ、バルト海沿岸を対象とした研究者を結集、以下に掲げる共通の基準でもって複合的国家編成の比較検討を共同で進めることで、近世ヨーロッパの言語空間の実態に即した普遍的な国家像を示そうとした。

（１）各々の地域における人的・物的資源の動員をめぐって構築された国家機構の比較：この基準は、国家機構を経営した統治エリートの視点に立った「上からのベクトル」に基づき、この観点から近世に築かれた経営的国家概念とその後の近代的国家経営との関連を明らかにすることを試みた。

（２）各々の地域住民に抱かれた行動規範や価値基準との関係においた政治支配の正統性の比較：これは、複合的国家編成に包含された様々な社会集団や地域住民の視点に立った「下からのベクトル」に基づく基準で、近世国家の正統性をめぐる議論で垣間見られる中世以来の伝統的な秩序概念と近世における国家編成との関連を明らかにしようとした。

（３）各々の地域における国家活動への住民の政治参加、あるいは統治エリートと地域住民との交渉における政治表明の比較：これは、上記の（１）、（２）に掲げた「上からのベクトル」と「下からのベクトル」が交錯する検討基準で、単一の為政者の統治権のもとに多様な政体がモザイク状に複合する広域的国家編成がどのような過程をたどって構築されたのかを明らかにしようとした。

４．研究成果

本研究は、国内外の研究者を招いた研究会を重ねるなかで、当該地域に独特な法慣習に従った地域統合の過程や、広域的に拡張する人的結合に従った地域統合の過程など、「地域と地域とを結びつける統合の方法と論理」に具体的な比較軸を定めることで、東西南北ヨーロッパに見られた複合的国家編成の検討を進め、そこで確認された近世ヨーロッパの政治社会に普遍的に確認できる国家編成のあり方を、「礫岩国家」という概念でもって結論づけた。

（１）本研究は、「地域と地域とを結びつける統合の方法と論理」に着目し、各々の国家編成を比較した。その成果として、①王位継承や戦争・内乱など、各地域固有の情勢を背景として立ち現れる普遍的な秩序観や君主観の存在や、②そうした観念に基礎づけながら実践された統治権力と服属関係の交渉過

程、③その結果としての地域間の結合関係の多様性が明らかとなった。

（２）本研究は、近世ヨーロッパの政治社会において普遍的な秩序観や君主観を脊柱としながら複数の地域が集塊する国家の輪郭を、様々な形質をもった礫が固結してできる「礫岩」という地質学用語に準えつつ「礫岩国家」と定義し、その成果を日本西洋史学界第 63 回大会小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 ―複合する政体、集塊する地域―」で披瀝した。

（３）本研究は、従来の国制史の成果に概念史の知見を融合する研究手法をもって、各地域の国家編成に見られた礫岩的状況を確認したが、このような研究手法は、ヨーロッパを越えてアジアやアメリカにおける国家編成を比較可能な視座を提供しうるとの認識を得ている。また本研究の過程で、近世ヨーロッパの国家形態に特化して議論されてきた複合国家論を動態的観点から刷新する問題が新たに見いだされた。歴史的ヨーロッパに特有な政治秩序としての複合政体のあり方に着目し、その長期的な持続の背景として、全ヨーロッパを覆った政治・社会・文化的変動に応じた政体理念と統治実践のダイナミックな変化の関係に対する検討は、今後の課題として継続される。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

①Satoshi Koyama, ““A battle between the Duchy and the Kingdom”― Remarks on the Orzechowski vs. Rotundus controversy on the Polish-Lithuanian union in 1564-66”, *Sekiguchi Tokimasa (ed.), From Krakow to Vilnius. Report of the 2nd International Itinerant Seminar “The Common Heritage of Eastern Borderlands of Europe”*, 査読無, 2013, pp. 55-68.

②近藤和彦,「礫岩政体と普遍君主:覚書」『立正史学』,査読無, 113 号, 2013 年, 25-41 頁.

③中澤達哉,「ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論―近代ヨーロッパ共和主義の多様性と共生の諸形態」,森原隆編『ヨーロッパ・「共生」の政治文化史』, 査読無, 2013 年, 84-105 頁.

④古谷大輔,「日本における北欧史研究の課題―「ミッシング・リンク」の探索による思考回復への挑戦」,『歴史と地理』,査読無, 664 号, 2013 年, 58-62 頁.

⑤後藤はる美,「17 世紀イングランド北部における法廷と地域秩序―国教忌避者訴追 をめぐって―」,『史学雑誌』, 査読有, 121 編 10 号, 2012 年, 1-36 頁.

⑥中澤達哉,「18-19 世紀ハプスブルク複合王政下の近代国民形成と政治的正統性―ヨーロッパの「極端なる典型」」,『西洋史論叢』, 査読無, 34 号, 2012 年, 19-29 頁.

⑦Tatsuya Nakazawa, ″Boundary Mechanisms in the Formulation of National Identity: A Case Study of Students in the English Departments at Selye Janos University″, *Eruditio-Educatio*, 査読有, vol.7-3, 2012, pp.106-121.

⑧ Atsushi Otsuru, ″The State of Austrian/Habsburg Historical Studies in Japan″, Gunter Bischof, Fritz Plasser, Anton Pelinka, Alexander Smith(Eds.), Global Austria. Austria’s Place in Europe and the World, 査読無, 2011, pp.297-304.

⑨小山哲,「「貴族の共和国」とウクライナ―植民地的共和主義をめぐる覚え書」, 篠原琢編,『ヨーロッパ東部境界地域の共有遺産研究Ⅰガリツィア』, 査読無, 2011 年, 87-116 頁.

⑩Hirotaka Tateishi, ″Pedro Rodríguez de Campomanes y la formación del Diccionario geográfico-histórico de España″, *Mediterranean World*, 査読無, vol.21, 2011, pp.1-18.

⑪中本香,「17～18 世紀中葉におけるスペイン王国の構造と政治的集合概念について」,『Estudios Hispánicos』, 査読無, vol.35, 2011 年, 45-68 頁.

⑫古谷大輔,「カルマル連合解体期のスカンディナヴィア世界における近世王国像について」,『IDUN-北欧研究-』, 査読有, 19 号, 2011 年, 221-234 頁.

⑬古谷大輔,「グスタヴ・ヴァーサ～スウェーデンの源を築いた男の激動の人生」,『エクセレントスウェーデン・ケアリング』, 査読無, 13 号, 2011 年, 86-90 頁.

⑭近藤和彦,「聖俗の結合」, 吉田伸之・伊藤毅（編）『伝統都市』第４巻（東京大学出版会), 査読有, 2010 年, 43-71 頁.

⑮Hirotaka Tateishi, "《El Ebusitano》: el primer periódico de Ibiza en los fondos de una biblioteca americana", *Mediterranean World*, 査読無, vol.20, 2010, pp.97-109.

〔学会発表〕(計 12 件)
①中澤達哉,「1989 年以降世代の東欧史学と二宮宏之の歴史学」, ヨーロッパ近世史研究会, 2013 年 3 月 23 日, 京都大学 (京都府).

②古谷大輔,「応酬される権力資源としての言説と言説交換の結果としての国家～「礫岩国家」への挑戦」, ヨーロッパ近世史研究会, 2013 年 3 月 23 日, 京都大学 (京都府).

③近藤和彦,「本国上更紗と世界資本主義」, 立正大学史学会, 2012 年 10 月 27 日, 立正大学 (東京都).

④古谷大輔,「ワールド・イズ・ノット・イナフ:「バルト海帝国」にみる複合的国家編成とスコーネ併合」, バルト・スカンディナヴィア研究会, 2012 年 9 月 23 日, 千里中央ライフサイエンスセンター (大阪府).

⑤Tatsuya Nakazawa, "Boundary Mechanisms in the Formulation of National Identity: A Case Study of Students at Selye Janos University", International Workshop (Toyota Foundation): Transboundary symbiosis over the Danube and EU integration, 2012 年 09 月 11 日, Komarno (スロヴァキア共和国).

⑥古谷大輔,「国家形成論はいかに国家主義・近代主義の批判を克服するか？」, ヨーロッパ近世史研究会第 17 回例会, 2012 年 3 月 24 日 , 武蔵大学 (東京都).

⑦ゴナ・リン (コペンハーゲン大学教授),「法、戦争、ネイション―デンマーク連合国家の変質の論理、1460-1864 年」,「近世ヨーロッパ周縁世界における複合的国家編成の比較研究」国際ワークショップ, 2012 年 3 月 13 日, 京都大学 (京都府).

⑧ゴナ・リン (コペンハーゲン大学教授),「財政軍事の道程から国家形成へ―デンマーク君主体制における市民社会、集合意識、国家、1500-1850 年」, バルト・スカンディナヴィア研究会 2012 年 3 月例会 (本科研との共催), 2012 年 3 月 2 日, 立教大学 (東京都).

⑨古谷大輔,「地域像の「北欧」的紡ぎ方―地域認識をめぐる座標軸の歴史的変遷」, JCAS 地域研究コンソーシアム 2011 年度コンソーシアム・ウィークシンポジウム, 2011 年 11 月 4 日, 大阪大学 (大阪府).

⑩古谷大輔,「近世ヨーロッパにおける礫岩国家研究のためのプロレゴメナ」,「近世ヨーロッパ周縁世界における複合的国家編成の比較研究」拡大ワークショップ, 2011 年 3 月 13 日, 京都大学 (京都府).

⑪中澤達哉,「南スロヴァキアにおける高等教育のグローバル化と共生の諸形態」, トヨタ財団 2010 年度研究助成研究会, 2010 年 12 月 10 日, 早稲田大学 (東京都).

⑫Hirotaka Tateishi, "The Contemporary History of Ibiza and ses Salines (Salt Evaporation Ponds)", Mediterranean Studies Group at Hitotsubashi University Workshop 2010 - Trieste (Italy), 2010 年 9月2日,トリエステ大学(イタリア共和国).

〔図書〕(計 5 件)
①近藤和彦, 御茶の水書房, 喜安朗他,『歴史として、記憶として：社会運動史 1972～1985』, 2013 年, 総 270 頁 (共著担当, 188－194 頁).

②中澤達哉, 昭和堂, 篠原琢・中澤達哉 (編),『ハプスブルク帝国政治文化史―継承される正統性』, 2012 年, 総 256 頁 (共著担当, 65-104 頁, 161-184 頁).

③近藤和彦 (編),『イギリス史研究入門』, 山川出版社, 2010 年, 総 412 頁.

④Kazuhiko Kondo & Miles Taylor (eds), *British history 1600-2000: expansion in perspective*, Institute of Historical Research, London, 2010, 292pp.

⑤立石博高, 八坂書房, 山本紀夫編,『トウガラシ讃歌』, 2010 年, 総 294 頁 (共著担当, 47－55 頁).

〔その他〕
ホームページ等
http://conglomerate.labos.ac/

６．研究組織
(1)研究代表者
古谷 大輔 (FURUYA DAISUKE)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：30335400

(2)研究分担者
立石 博高 (TATEISHI HIROTAKA)

東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：00137027

大津留 厚（OTSURU ATSUSHI）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：10176943

小山 哲（KOYAMA SATOSHI）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：80215425

中本 香（KAORI NAKAMOTO）
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：30324875

中澤 達哉（NAKAZAWA TATSUYA）
福井大学・教育地域科学部・准教授
研究者番号：60350378

後藤 はる美（GOTO HARUMI）
東洋大学・文学部・講師
研究者番号：00540379

(3)連携研究者
近藤 和彦（KONDO KAZUHIKO）
立正大学・文学部・教授
研究者番号：90011387